鳥取県立倉吉東高等学校野球部創部100周年記念事業

硬式野球記念試合

■日時　平成24年6月17日(日)

■会場　倉吉市営野球場

■試合日程

		(1塁側)		(3塁側)
9:00～	歓迎式典			
10:00～	記念試合	鳥取県立倉吉東高等学校	―	ＰＬ学園高等学校（大阪）

主催：鳥取県立倉吉東高等学校野球部創部100周年記念事業実行委員会

ごあいさつ

ＯＢ会長　山　田　悌　次

主催者を代表し一言ご挨拶申し上げます。

本年創部100周年を迎えるにあたり、ＰＬ学園様をお招きして記念試合を開催することとなりました。ＰＬ学園様に当方のお願いを快くお受け頂きましたことは、望外の幸せであります。心からお礼申し上げます。

記念試合に臨む選手たちがこの試合を、夏の大会に向けての一層の励みとするよう切に願っています。また桑田、清原の両人気選手を擁してこの倉吉市営球場を大いに湧かせた、昭和60年のわかとり国体以来のＰＬ学園様の試合を、地域の高校野球ファンの皆様に楽しんで頂ければ幸いであります。

本校野球部は年々の若き部員たちの情熱に支えられ、廃部の危機や少数部員の劣勢等幾多の苦難を乗り越え、100年の歴史を重ねてまいりました。その間ご承知の通り甲子園出場も春２回、夏１回を数えます。これも一重に、学校、後援会、地域の高校野球ファンの皆様のお陰であります。有難うございました。

青春の１ページを汗と涙と歓喜の倉東野球で埋めた若者は、平成24年３月の卒業生を含め約750名（内故人約170名）を数えます。その経験は、其々の人生を切り開く上において少なからず役立っているものと思います。

本日このように開催出来ますのも学校、高野連、審判部、後援会のご理解ご協力のお陰であります。有難うございました。これからも野球部に対しご指導ご鞭撻を賜ります様お願いしまして、ご挨拶とさせていただきます。

祝　　辞

倉吉市長　石　田 耕太郎

打吹山の新緑が美しく、本日ここ倉吉の地に、鳥取県立倉吉東高等学校野球部創部100周年記念事業として、高校野球の名門で多くのプロ野球選手等を輩出されたＰＬ学園高等学校をお迎えし、記念試合が開催されますこと心よりお喜び申し上げます。

お越しいただいたＰＬ学園高等学校は、皆様ご存知のとおり甲子園で春夏７回の全国制覇を達成され、昭和60年のわかとり国体ではプロ野球で一時代を築いた桑田、清原両選手が出場され、その活躍に多くの市民が熱狂いたしました。お二人の高校時代最後の公式戦となったのが、この倉吉市営野球場であります。

倉吉東高等学校野球部は大正２年に産声をあげ、幾世代にわたる歴史を重ね、学校創立80周年時の春の選抜大会では「さわやか野球」として全国に旋風を巻き起こす等３度の甲子園大会出場を果たしてこられたところです。今でも当時の事を思い出しますと胸を熱くする市民も多く、地元の方々から愛されるチームとなっております。

今年度創部100周年を迎え、新たな100年に向かうにあたり、ＰＬ学園高等学校との記念試合が市民の皆様の心に刻まれるとともに、待望久しい甲子園出場へのステップになることを期待しているところであります。

最後になりましたが、本日の試合に御尽力いただきました倉吉東高等学校野球部ＯＢ会様、野球部後援会様、倉吉東高等学校の皆様等関係者の方々に敬意を表し、祝辞といたします。

祝　　辞

野球部後援会長　岡　本　博　文

この度、倉吉東高野球部創部100周年おめでとうございます。

倉吉東高野球部は、鳥取一中（現在・鳥取西高）、米子中学（現在・米子東高）に続き1913（大正２年）に創部されています。その後、倉吉中学、倉吉一高、倉吉高、倉吉東高と受け継がれ現在に至っているのですが、その間1988年（昭和63年）の第60回選抜大会の出場まで、甲子園出場は夢の又夢でした。

それまでの野球部は、血と汗の練習を繰り返すも、栄光への道は倉吉東高には遠い道程でした。しかし75年間の野球部員の厳しい練習の成果が実ったというのでしょうか、1988年足羽英樹監督のもとで甲子園出場の悲願が達成されたのです。

この甲子園への夢の実現は、在校生卒業生のみならず、倉吉市を中心とした鳥取県中部地区の夢でもあり、1回戦の市立船橋高等学校との試合では、甲子園のアルプス席は満員、地元の倉吉、中部の市民はこぞってテレビの前で応援しました。倉吉東高の「文武両道」の精神を社会に示した甲子園出場であったと思います。その後も、翌年の第61回選抜大会にも選ばれ、第77回全国高等学校野球選手権大会にも鳥取県大会で優勝を飾り、晴れの県代表として甲子園出場を果たしました。

これからもぜひ倉吉東高野球部は、この輝かしい野球部の先輩たちの歴史に恥じない活躍を祈っております。終わりに、もう一度倉吉東高の100周年の伝統を今後も引き継いで、そして新しい歴史を創ってください。これを私の祝辞といたします。

祝　　辞

学校長　牧　　尚　志

この度、倉吉東高等学校野球部が創部100周年を迎えることとなり、まことに同慶の至りです。

本校野球部は、学校創立（明治42年４月）間もない大正２年に創部され、戦前の倉吉中学から戦後の倉吉一中、倉吉高校、倉吉東高等学校へとその歴史と伝統は絶えることなく受け継がれ今日に至っております。この間、歴代の部長、監督の熱心な指導と部員の血の滲むような努力があり、同窓の諸先輩方の叱咤激励、地域の高校野球ファンの心強い支援があったのは言うまでもありません。この機会に、改めて本校野球部を築かれた幾多の先人の功績を称えるとともに、終始変わらぬ応援をくださった方々にお礼を申し上げる次第です。

この100周年を迎えるにあたり、ＰＬ学園高校野球部との記念試合が行われます。ＰＬ学園は清原和博・桑田真澄・立浪和義・今岡誠・松井稼頭央・福留孝介など多くのプロ野球選手を輩出している名門校であることは今更ながら説明するまでもありませんが、ＰＬ学園との記念試合の行われる倉吉市営野球場が1985年（昭和60年）のわかとり国体で、ＫＫ（桑田・清原）コンビの高校時代最後の公式戦の舞台となっております。この野球史からも倉吉とＰＬ学園との縁を感じます。

一方、倉吉東高校野球部は100年の歴史の中で、第60回センバツ大会で甲子園に初出場、その翌年の61回センバツ大会、そして平成7年に選手権大会出場と３回の甲子園出場を果たしており、その事は本校野球部の歴史に燦然と輝く金字塔であります。特に第60回センバツ大会では当時の牧野直隆大会会長から「基礎的な技術をしっかり身につけた、さわやかチームだった」と称賛されたことは今もって本校野球部の誇りであります。勿論、甲子園に出場した部員だけではなく、甲子園出場という夢叶わず球場を去っていった部員、ベンチの裏方でチームを支えた部員たちの努力があってこそ今の100年の歴史があるのだと確信しております。そして本校を巣立っていった野球部員たちがグランドだけではなく色々な場面で「素直に謙虚に常に挑戦者たれ」の精神で高校生活を必死に送った姿があったからこそ、長きにわたって地域の方々からの温かい声援を得られているのだと思います。

ＰＬ学園は、ただ単に全国屈指の強豪校というだけではなく、「逆転のPL」の異名をとることでも有名です。そういう意味でも今回の記念試合を通して、粘り強い倉東チームの再生を期待しております。

終わりになりましたが、この倉吉東高野球部創部100周年事業に当たって任に当たられました関係者の皆様のご苦労に心から感謝と敬意を表し、お祝いのことばとします。

―― 鳥取県立倉吉東高等学校野球部　沿革 ――

（倉吉中学）

大正２年８月　　第５回山陰中等学校野球大会初参加
大正14年８月　　第11回全国大会山陰予選で初勝利

（倉吉第１高等学校へ改称：昭和23年４月）

昭和23年７月　　第30回全国大会県予選　優勝
昭和23年８月　　第30回全国大会東中国大会　出場

（倉吉高等学校へ改称：昭和24年４月）

昭和24年５月　　第２回山陰大会　優勝
昭和24年10月　　第２回秋季中国地区大会　出場
昭和25年７月　　第32回全国大会東中国大会　出場
昭和26年７月　　第33回全国大会東中国大会　出場
昭和27年５月　　春季県大会優勝

（倉吉東高等学校へ改称：昭和28年４月）

昭和29年10月　　秋季県大会　準優勝
昭和29年11月　　第７回秋季中国地区大会　３位
昭和30年７月　　第37回全国大会東中国大会　３位
昭和32年５月　　春季県大会　優勝
昭和33年10月　　秋季県大会　優勝
昭和33年11月　　第11回秋季中国地区大会　出場
昭和35年５月　　第14回春季中国地区大会　出場
昭和35年７月　　第42回全国大会東中国大会　出場
昭和36年５月　　第15回春季中国地区大会　出場
昭和37年５月　　春季県大会　優勝
昭和37年５月　　第18回春季中国地区大会　出場

（現在の位置に移転：昭和42年３月）

昭和42年11月　　第29回秋季中国地区大会　出場
昭和55年10月　　第55回秋季中国地区大会　２回戦進出
昭和56年５月　　第56回春季中国地区大会　出場
昭和62年10月　　秋季県大会優勝
昭和62年11月　　第69回秋季中国地区大会　３位
昭和63年４月　　第60回選抜高等学校野球大会　３回戦進出
昭和63年11月　　第71回秋季中国地区大会　準優勝
平成元年３月　　第61回選抜高等学校野球大会　出場
平成７年７月　　第77回全国高等学校野球選手権鳥取県大会　優勝
平成７年８月　　第77回全国高等学校野球選手権大会　出場
平成８年６月　　第86回春季中国地区大会　出場
平成９年11月　　第89回秋季中国地区大会　出場
平成11年10月　　秋季県大会　優勝
平成11年10月　　第93回秋季中国地区大会　出場
平成12年11月　　第95回秋季中国地区大会　準々決勝進出
平成17年11月　　第105回秋季中国地区大会　準々決勝進出
平成21年９月　　秋季県大会　優勝
平成21年10月　　第113回秋季中国地区大会　出場

○甲子園選抜大会……出場２回	○甲子園選手権大会…出場１回
○春季中国地区大会…出場５回	○秋季中国地区大会…出場12回

校　歌

一、　明けゆく空に　打吹の
輝く峰を　仰ぎつつ
高き理想の　学舎に
もゆる希望と　純潔の
光を受けて　こぞり咲く
花なり　若き　友われら

二、　小嶋の川の　ゆたけさと
真澄める　水面(みのも)慕いつつ
清き集いの　学舎に
伸びて　育ちて　美しく
誇りも高く　競い咲く
花なり　若き　友われら

三、　自由の国を　とぶ鳥の
希望のつばさ　讃えつつ
築く文化の　学舎に
心ひとすじ　身を鍛え
試練に耐えて　強く咲く
花なり　若き　友われら

応援歌

連山(れんざん)

一、連山(れんざん)遠く雲に入り　ふもとに春の立ちくれば
めぐる小鴨(おがも)の岸の上に　今燃えいずる若緑(わかみどり)
いななく駒(こま)に鞍(くら)おいて　我等が胸はおどるかな

二、千山(せんざん)の花は散りやすく　十年(ととせ)悲しき春なりき
若き百衣(びゃくえ)の胸と胸　誓いは今に変らねど
涙の中に矛(ほこ)とりて　ひしめき立たん時ぞ今

三、古き歴史の跡とえば　唯凄惨(ただせいさん)の姿かな
壮士幾度出立(そうしいくたびいでた)てど　風蕭々(しょうしょう)と空(むな)しくて
血潮に染みし野には映(は)ゆる　西大山に日は赤し

応援歌

桜花万朶(ばんだ)

一、　桜花万朶(ばんだ)の香も清き　春うららかな校庭や
莞爾(かんじ)と進む熱血の　熱烈燃ゆる若き胸
倉東健児(そうとうけんじ)の意気を見よ

二、　翠嵐めぐる夏の朝　かかる未練の雲もなく
出でや進みて梟雄(きょうゆう)の誇りも高く堅持せん
倉東健児(そうとうけんじ)の意気を見よ

応援歌

若き血潮

一、　若き血潮に燃ゆるもの　倉東健児の意気を見よ
威力敵なき我が力　征靴(せいか)の誇り高らかに
正々の陣堂々と　戦いとらん獅子の座を

二、　若き血潮に燃ゆるもの　倉東健児の意気を見よ
威力敵なし我が力　自尊の誇り高らかに
正々の陣堂々と　戦いとらん獅子の座を

応援歌

春繚乱(りょうらん)

一、春繚乱(りょうらん)の色匂う　里端(さとば)の花に溢(あふ)る時
清き我等の双眸(そうぼう)は　晴れの日燃えてかがやきぬ

二、ああ山伏(さんぶく)の炎熱や　燃ゆる黄塵(こうじん)身に浴びて
滝瀬(たきせ)とたぎる汗と血に　我等が胸はいや鳴りぬ

三、秋蕭々(しょうしょう)の風落ちて　み空をめぐる暮の鐘
久遠(くおん)の響きに誓いたる　堅き心を誰か知る

四、厳寒はだえをつんざきて　人埋(うず)み火にひそむ時
健脚伏して・紛(ひんぷん)の　雪に乱舞のすがたかな

五、見よ堂々の騎虎(きこ)の陣　鉄脚鉄腕ここにあり
進む我等を前にして　不落(ふらく)の城やなどあらん
不落(ふらく)の城やなどあらん